

スイートコーン (イネ科)

播種期によって適した品種を選び、面的にまとめて定植する。アワノメイガは的確に防除する。

作型	月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
露地移植栽培				保温 播種	定植	○	収穫	■					
露地直播栽培					トンネル	○	■						
抑制栽培						○	■						

1) 適地

スイートコーンは根が深く入り茎葉が大きくなるため、排水が良好で耕土が深く、有機物の多いところが適します。吸肥力が非常に強く、前作で残った肥料も吸収しますので、輪作の一環として作付けを考えましょう。

2) 品種

トウモロコシはメキシコ原産で、古くから世界中で栽培されてきた作物です。トウモロコシの中でも糖分が多く、粒のやわらかい「甘味種」がスイートコーンです。品種は早生、中生、晩生に大別でき、生育期間はそれぞれ 80 日、90 日、100 日前後です。最近では品種改良が進み、黄色種・バイカラー種（黄色粒に白色粒が 25% 程度混じっています）・白色種とも、それぞれ甘味が強く、粒皮がやわらかくなっています。抑制栽培には、播種後花芽分化までの期間が長い晩生品種が適しています。

黄色種：キャンベラシリーズ、おひさまコーン

バイカラー種：ピーターシリーズ、カクテルシリーズ

白色種：ルーシー

3) 作り方

【圃場の準備】播種や定植の 1 か月くらい前に 1 m² 当たり堆肥 2 kg と苦土石灰 100 g を施用し、よく耕します。基肥は、播種の 1 週間前に高度化成肥料を 1 m² 当たり 80 g 施用します。マルチ栽培では、緩効性肥料を 200 g 施します。

【播種】直播、育苗どちらでも可能ですが、太くてよいものをとるために直播栽培を基本とします。直播は、遅霜の心配がなくなる 4 月下旬～5 月上旬から播種できますが、マルチや不織布によるベタ掛けをすると 4 月中旬に播種でき、早く収穫することができるです。1 条に播く場合は、畝幅 75～80cm、株間 30cm に、2 条では畝幅 150cm とし、1 か所 2 粒播きで本葉 2～3 枚で 1 本立ちにします。育苗する場合は、直径 9cm のビニールポットに 2 粒播きし、本葉 2～3 枚で 1 本に間引きます。一列に長く植えるより、数列にある程度まとめて同じ品種を植える方が花粉のつきがよく、穂の先端まで実入りがよくなります。

【追肥・土寄せ】追肥は本葉 5 枚頃と雄穂の出る前に、高度化成肥料を 1 m² 当たり 40

g 施用します。1回目の追肥のときに倒伏防止を兼ねて中耕、土寄せをします。マルチ掛けをしている場合、追肥は不要です。

【管理】株元からはわき芽が出てきます。以前は、わき芽をすべて取り除くことが推奨されていました。しかし、わき芽も先端に着生する雄穂が花粉の供給源になるほか、光合成産物を生産して果実の太りをよくする働きを持っていることから、そのまま残して栽培してください。また、通常は太りにくい下側の雌穂も、取り除くと葉を痛めることにつながるので、そのままにしておきます。

乾燥に強い作物ですが、干ばつがひどいと雌穂の充実が悪くなって収量が著しく低下します。必要に応じて灌水できるようにしておきましょう。

【収穫】絹糸が出てから 20 日前後で、絹糸が黒褐色に変わった頃が適期です。収穫後は、夏の室温で5~6時間後には急激に糖分が減り始め、24時間たつと半減してしまうので、収穫後はできるだけ時間をあけずに味わうとよいでしょう。

4) 病害虫防除

アワノメイガ、アブラムシ等の害虫対策が重要です。これらの害虫は、早く収穫する作型では被害を軽減できます。特に、アワノメイガは、雄穂を白化させたり茎や実を食害したりします。草丈が50cmほどになった頃、雄穂が株の中心部から見えだした頃と雌穂の肥大期が防除の時期です。幼虫が雌穂に侵入すると、商品価値が著しく低下するので、栽培期間中を通してこまめに防除することが必要です。



スイートコーンの草姿